







虚構はどこまでも虚構であつて、育たない感覚はどこまでも育たないと思う。子供を育てる氣持で貴重な時間を積み重ねてゆくことこそ合川町百年の伝統を形成することとなる。

X

農家経済はいちおう富農が安定し、零細農家は不況のなかを生き抜いている様相であるが、耕地から収量をあげる目標の経営だと、それぞれ耕作反別が限られているから、どうしても手持の耕地から年間純収入をいくらあげると自家の生活が可能であるか、という点に基本を置いて、その作物を決めなければならぬ。そのためには年間計画があり、簿記によりその指数を確認しなければならない。そして、販売のメドを握つて計画的な営利農業への出发が必要である。そこには協同精神が確立されなければ可能性が生れない。

我々農民は比較的利己主義者であるから困難が伴うが、みんなで話し合つて決めたことを必ず守り、必

日本では、とかく文化（広範囲）には中央といわれている一つの大きな鉄壁の中ですぐに生育形成されました。そしてそのかこの中から、少しのすきまを通して地方の文化へと一貫してつながります。

だから私たちはその壁の中での状態は何一つ考えようとしても及びもつかぬものだつたのです。そこは高級と、優雅とでいゝつくされる花園の温床地帯で、文化を求める文化人族のあがれであり、そこに到達することができ、それが彼等のこの上ない光榮であり、もう生活の心配もない安住地だつたのである。

秋深く、日足は馳足の感が深い。合川町も誕生一年有半、曲折が多いようにも感じられたが、一貫して川の流れのように新町建設への歩みつゝある。旧村時代の良さを懷古しながら、合川町に憤りを感じて、いる感覺が新生する合川町への希望と同棲しているわけである。

戦前の人々は明治時代の日本の隆盛への感覺を愛しており、現在の小中学生は旧村を感覺しておらないので、合川町を通じて社会感覚を成長させてゆくわけである。老幼男女の共存が社会なのだから、その肯定のなかで社会感覺が律されて円満な世代ということが出来るよう、地域感情なども人間の良識のなかでは支障が出る筈がない。

僕は元来主觀中心に行動する子供であつて、人のことを聴きたくない反対精神の持主であつた。どうしてかといふと、それは必ずしも良いことでも人から強制されなければならぬ元氣がなくなるからだ。

X

## 地方文化の

想 隨 来去 日々

地方文化のこと

一  
萩

町章図案募集

す。その権威が文化人のレ  
ッテルだったのです。  
然し戦後そうした壁は破  
本當に自分たちの生活、  
その場その場からいろいろ  
な形の違いはあつたに、

## 募 集 規 定

バッヂ等に用いて適當なものであること。  
色は二色以内とする。

五、表彰 審査の結果、採用図案の応募者には  
記念品を贈呈する。

六、宛先 合川町役場総務課広報係または合川  
町教育委員会事務局広報係宛とし、住所、氏  
名、年令、職業を明記のこと。

七、その他 応募作品には加筆修正することが  
ある。

応募作品は一切お返ししないものとする。

合川町役場

は力です。つまり国民がそうした勢力を自己の身辺から造り出さねばしようがないといふ必要を身近に感じたからなのです。そうした新しい意味での文化サークルが近頃目覚しく各地に発生しています。もうわれくの文化を誰にも奪われることはないのです。文学創作活動、演劇活動等広く芸術全般と、たくましい活動の足音が一歩々日本全体をおよべっているのです。だから、地方文化ということは、単なる地方という極限された旧来の考え方ではなく、地方に発生し、根を下しながらも枝葉を日本文化全体に及ぼせる力と意慾を持たねばなりません。たとえ、それが小さなものであっても、それは一番基底の一部であって、上にあるものをしつかりと支えているのです。然しわれくはそのことによつて、いわゆる文化の中心地からおくれてはいけません。具体的にいって、中心地といわれる東京地方の文化と一緒に伸びていかねばなりません。何か、概念的に中央に比して地方は低俗なごたごたした偏狭な問題のある所であると考えられ勝ちです。しかも地方といわれる所に住んでいる人がそう結論しているのが現状なようです。私も、さゝやかながら創作面を通じて新しい文化活動に仲間入りしています。そしてあくまでテーマを地方の風土と自然と人間の内面におき、作風では中央におくれぬよう努力しています。

そしてわれ／＼身辺から  
一人でもそれにおくれる  
をなくしなければなりません。  
（九、二）  
（筆者・奥羽文学同人、  
中学校教諭）

【中学生作文】

## 修学旅行

西中三A 杉淵恒己

◇九月七日

多くの父兄に見送られながら、胸をはずませて合田駅をたつた。今日は私達生徒で一番思い出となる修学旅行の日である。

秋田駅からはみんな席にすわれるようになつた。十曲を過ぎるころから窓外は暗くなる。みんなは思い思いに話したり、物を食べたりしている。

先生から「疲れるからなるべく早くねむるようにな」と注意が出された。

◇九月八日

目をさますと二時だ。昨夜から五時間ぐらいねむつたわけである。朝もやの中には青や赤の電灯が美しく見える宇都宮駅に着く。少し早いが朝食をとつてから一番の列車で日光に向う。

日光で有名なのは東照宮、中禅寺湖、華厳の滝等と聞いているが、もちろん見るののははじめてである。バスで華厳の滝へ行き、さらにばらしい。陽明門、眠り猫、中禅寺湖へ行く。その美しさ、雄大さにはみな目を見はるばかりである。

それにも増して東照宮はすばらしい。鳴き龍、鳥居等私達の目に映るものすべての美しさ、嚴かさ、技術のたくみさに驚くばかりである。

そして徳川家の権力がいかに強かつたかとその時代のことがしのばれた。

これが、とうとう何も買わなかつた。日光駅前で昼食をとり。計画はたゞ来たつもりなのに途中で小使いをつかい過ぎたらしい。これで観光客も非常に多い。土産物屋が声をからして客を呼んで買わせようとしているが、とうとう何も買わなかつた。

修学旅行

(中学校教諭)

「町政質問欄」質問募集

公民館では現在町と提携して各部落を巡回し町政を語ったり、町民各位の町政に対する不平や希望を開く「部落座談会」を開催しておりますが、この座談会は年に一度よりその部落に回りませんので広報係では本号から「町政質問欄」を新設し、みなさんの質問に応じてそれをそれぞれの主管課長あるいは係に聞き、又は町三役に直接聞いて広報紙上で回答することにいたしました。

どんな質問でも結構ですから、どしどしお寄せ下さい。例えば「俺は役場○○氏にこんな用件を頼んだがいまだにやつてくれない。一体どうなつているのかしら……」という類の質問を歓迎いたします。

質問事項は簡単（三百字位）にして住所、氏名は必ずお書き下さい（紙上の匿名は自由です）。質問の宛先は「教育委員会事務局広報係」です。なお質問多数の場合の取扱は当方へ御一任願います。

（註）町政質問は役場のみでなく診療所、教育委員会、農業委員会その他あらゆる町関係の機関に対するものを含めます。

上野行の列車で東京へ向う電気機関車なので乗り心地もまことに結構である。東京へ近づくにつれてみんなワイヤイさわいでいる。あこがれの東京が目の前に見えて来た。旅館から出迎えの人が来ていた。人ごみと騒音とネオンの輝く街をバスで通り、比良野（旅館）へ着く。テレビ、電話、扇風機等よく設備されている旅館だ。風呂に入り、昨日からの汗と疲れをサッパリと洗い流した。東京に出ている先輩が三人宿を訪ねて来てくれた。東京の第一夜でみんな張り切つていてるせいか、床に入つてからも仲々ねむれない。

◇九月九日

六時に目がさめた。今日はよい／＼都内見学の日だ

八時頃バスで宿を出発、羽田空港、浅草公園、国会議事堂、皇居、銀座等々、見るもの、聞くものすべてがある。珍らしく、それに驚いた。夕食後、先生に連れられて後楽園球場へプロ野球のナ

午後六時、旅館にさよなら

試合途中で球場を後に宿へ急ぐ。八時の出発だが、みんな帰り仕度にかゝつていて

試合は止め、神宮球場へ六大学野球の観戦に行く。こゝで法政大学と立教大学の試合を見たが、両大学の応援の仕方はすばらしいものであつた。

四時までの外出時間なので試合途中で球場を後に宿へ

して上野駅に向う。八時、思い出を残しながら東京に別れをつげる。  
車中私は今日までのいろいろな出来事を思い出してこの旅行はとても有意義なものであったと考えた。よかつた事、悪かつた事、失敗した事など、これから私達の生活に実際に役立つてくれると思う。汽車は夜の関東平野を一路我々の町を目指してばく進している。